

2012年3月8日
イオン株式会社

「3. 1 1 復興への願いをカタチに」

宮城県塩釜市から10年間にわたり被災地域で30万本の植樹活動をスタート

各地に甚大な被害をもたらした東日本大震災からまもなく1年をむかえます。イオンは3月11日（日）より、イオングループ従業員30万人の復興への想いを込めて、10年間にわたり被災地域で30万本の植樹活動を宮城県塩釜市からスタートいたします。

この植樹活動を基点として、地域のお客さまや行政、生産者の方々などとともに、イオングループ全体で復興に向けた街づくりや地域産業の振興、ボランティア活動などに長期的に取り組んでまいります。このような被災地でのグループの様々な活動を総合的に推進するため、本年3月1日、新たに「イオン東北代表」を配置いたしました。

イオンは「くらしのライフライン」として、地域のお客さまと手をたずさえ、被災地の復興、そして「夢のある未来」の実現に向け、ともに歩んでまいります。

被災地域での植樹活動

東日本大震災の津波により被災地の海岸沿いで多くの木々が被害を受けました。イオンは、被災地域のみどりを取り戻すため、自治体やNPOと協力しながら今後10年間に渡り30万本の植樹活動を進めてまいります。その第一弾として3月11日（日）、イオンタウン塩釜（宮城県塩釜市）において「イオン 心をつなぐ森づくり」植樹として、地域の皆さまとともに1,200本の植樹を実施いたします。また行政と連携し、「森の学校づくり」や「復興の森づくり」などに参画してまいります。

「イオン 黄色いレシートキャンペーン」

毎月11日に実施している通常のレシートキャンペーンを、3月9日（金）から11日（日）の3日間に期間を拡大して開催いたします。

今回はお客さまとともに「被災地の子供たちに笑顔を届けたい」という思いのもと、投函されたレシートの1%相当を公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンに寄付し、主に「子育て被災家庭訪問支援ボランティア事業」に役立てていただきます。今回のキャンペーンは、㈱マルナカ、イオンキミサワ㈱がはじめて参加し、グループ23社、全国の「イオン」「マックスバリュ」など合計約1,700店舗で実施いたします。

被災地でのボランティア活動

支援活動に実績のある岩手県遠野市のNPOと連携し、3月28日（水）より陸前高田市を中心にボランティア活動を行ってまいります。今年度は合計21回の活動で約700名の参加を予定しております。

イオングループ各社の活動

㈱イオンファンタジーは、3月11日（日）、時間制遊具のある191店舗で募金活動を行うとともに当日に限りファンタジースキッズガーデンやボールプール等を無料開放いたします。

また、㈱ワーナー・マイカルは3月11日（日）、新石巻、名取、福島の3劇場で映画を無料上映いたします。

（詳しくは各社（各劇場）ホームページをご覧ください）

ご参考までに

【3月9日（金）～11日（日）開催「イオン 黄色いレシートキャンペーン」について】

3月9日（金）から11日（日）まで通常の期間を拡大し、対象を被災地の子どもたちの支援に限定して「イオン 黄色いレシートキャンペーン」を開催いたします。今回のキャンペーンは、お客さまと最も近い小売業であるイオンが、お客さまとともに「被災地の子どもたちに笑顔を届けたい」という思いから行うもので、グループ23社、全国の「イオン」「マックスバリュ」など合計約1,700店で実施いたします。

キャンペーン期間中、専用ボックスに投函されたレシート金額合計の1%をイオンが拠出し、被災地の子どもたちや子育ての支援で活動実績が高い「公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」に寄付いたします。寄付金は「イオン×セーブ・ザ・チルドレン被災地子ども支援ファンド」として、被害が大きい宮城、岩手、福島の東北3県を中心に子育て中の家庭をサポートする「ホームスタート」事業など、子どもたちの健やかな成長への支援に役立てられます。

被災地では、長期にわたる避難生活により、これまでのコミュニティのつながりが弱まり、孤立する人が少なくありません。未就学児（6歳以下）の子どもを持つ家庭でも、避難先の慣れない環境下で子育てに追われるなか、外とのつながりが希薄化し、強いストレスにさらされています。「ホームスタート」事業は、子育て中の家庭をボランティアが訪問し、保護者への傾聴や家事や育児を協働することで、保護者の不安やストレスを取り除く家庭訪問型の子育て支援です。イオンは、今回のキャンペーンを通して、安定した家庭環境づくりをサポートすることで、将来の被災地復興の担い手である子どもたちの健やかな成長を支援いたします。

※毎月11日に実施している「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」は、各店舗近隣のボランティア団体の名前と活動内容を書いた投函ボックスを置き、お客さまにお渡しする黄色いレシートを、応援したい団体のボックスへ投函いただいておりますが、この3月9日（金）から11日（日）については、震災復興支援ボックスのみの設置となります。
※通常のキャンペーンは、3月に実施しないことを受け、次回4月10日、11日の2日間、実施いたします。

【「イオン 黄色いレシートキャンペーン」について】

2001年にジャスコ株式会社がイオン株式会社に社名変更したことを機に、同年10月11日よりスタートいたしました。毎月11日のキャンペーンでは、投函されたレシートを団体ごとに集計し、合計金額の1%に相当する希望商品を当該団体に寄贈しています。

キャンペーンの輪は年々広がり、2010年度は、グループ21社の「イオン」「マックスバリュ」など1,156店舗で実施いたしました。また、スタートからの10年間で、のべ約13万団体に累計13億6,433万円相当の品物を贈呈しています。

【公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンについて】

セーブ・ザ・チルドレンは、1919年に創設された社会環境に恵まれない子どもたちのために活動する世界最大のNGO団体で、世界120カ国で活動を行っています。公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下、SCJ）は、1986年に日本におけるセーブ・ザ・チルドレンとして立ち上げられ、日本の子どもたちを取り巻く環境の改善のために活動しています。

SCJは、被災地でさまざまな子育て支援を行っており、地域のボランティアとのネットワークで現地のニーズを把握し、対応するノウハウを持っています。「ホームスタート」事業については、NPO法人ホームスタート・ジャパンと協働で「子育て被災家庭訪問支援ボランティア事業」を行っています。今回のキャンペーンはSCJへの活動資金提供を通して、この事業を支援するものです。

イオンでは、2008年よりSCJの活動に賛同し、支援を行ってまいりました。

【「ホームスタート」事業について】

「ホームスタート」は、未就学児（6歳以下）の家庭にボランティアが訪問する、家庭訪問型子育て支援です。子育てに追われ、コミュニティから孤立しがちな家庭の不安や課題の解消をし、子どもたちの安定的な家庭環境づくりのサポートを行います。

日本では、NPO法人ホームスタート・ジャパンが「ホームスタート」事業を行う団体の支援を行っています。被災地では、SCJと協働で、被災地で活動をする団体のコンサルタント、家庭訪問を行うボランティアの養成を実施しています。

以上